琉球病院 Monthly

独立行政法人
国立病院機構　琉球病院
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.118
2024. September

発行者　琉球病院事務部長
池間　忍

基本理念　この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

あしびなぁOT のご紹介

作業療法士長　**中野　良子**

約４年半前にコロナが日本で初めて報告されてから私たちの生活は大きく変わりました。私たち OT（作業療法士）は、人と人、人とモノ、人とその人を取り巻く周囲の環境をつなぐ、つなぎながら患者さんの回復や希望する生活に近づけるように一緒に取り組むことが大きな役割だと思っています。同じ場所で一緒に過ごすこと、空間や物を共有しながら近くで会話をしたり、時には大きな声で笑ったり、歌を歌ったり、運動をして汗をかいたり、料理を作って一緒に食べたり・・・そういった活動の多くがコロナ禍では制限をせざるを得ない状況になりました。これまで複数病棟の患者さんで一緒に行っていた病棟外での活動もなくなり、病棟内での活動が増えました。患者さんには閉塞感のある不自由な思いを抱きながらの活動参加になったのではないかと大変申し訳なく思っています。

ようやくコロナが５類に移行されたことで、以前のように複数病棟の患者さんで一緒に行う病棟外の活動を５月より再開しました。それが「あしびなぁ OT」です。あしびなぁ OT は、あしびなぁの森というリハビリ棟で実施するプログラムになります。退院後の生活がより良いものとなるように仲間と一緒に取り組んだり、まずはベッドから離れ病棟から出て季節を感じたり、あしびなぁの森という広場でリラックスして過ごしたり、少しずつ人の中で過ごすことに慣れてもらうことができればと思っています。あしびなぁ OT は、作業療法士だけでなく、心理療法士や精神保健福祉士、看護師と多職種で運営しています。プログラムの内容やスケジュールは下記のとおりです。詳しく知りたい方は是非、作業療法士までご連絡ください。

曜日	プログラム名	内　　容
月･木	Café　あしびなぁ	好きな音楽や映像、本を見てゆっくり過ごしたり、中庭で過ごすこともできます。まずは病棟から出て、ゆるく人の中でリラックスして過ごすための場です。
	認知リハ （認知リハビリテーションプログラム）	パソコンを使用したゲームや話し合いを通して認知機能（集中力や課題を上手に行う力など）の改善や向上を目指します。
火	いいあんべぇ （リラクゼーションプログラム）	自分の体の状態に意識を向け、体を使うことで体や気持ちの変化を感じます。ストレス対処や気持ちを切り替える方法を見つけます。
水	ゆいま～る （協同課題プログラム）	退院後、仕事をすることを目標にした人たちが集まって様々な活動を行います。他の人と協力し助け合う経験を通して、仕事に必要なスキルを学びます。
金	学んで 活かそう!! （退院準備プログラム）	退院後の生活に活かせるように、生活や治療のことをみんなで学んだり練習を行います。退院後の生活の不安を軽減し、より充実した地域生活を送ることを目指します。

院　長

ふくじ　やすひで
福治　康秀

1964 年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。
1993 年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。
95 年那覇市立病院精神科、96 年琉球大学精神神経科、2009 年琉球病院精神科部長、2010 年副院長を経て 2014 年琉球病院長に就任。
日本森田療法学会理事。
日本病院・地域精神医学会評議員。
琉球大学医学部　臨床教授。

診療科

- 一般精神科
- こども心療科
- クロザリル外来
- アルコール依存症等外来

病床数　353 床

- 精神　151 床
  （一般精神・クロザピン専門・精神科救急）
- アルコール依存症　44 床
- 児童思春期ユニット　4 床
- 重症心身障がい　90 床
- 医療観察法　37 床

那覇市からのアクセス

路線バス　那覇BS（下り）または名護BS（上り）より沖縄バス「77 番名護東線」浜田バス停下車徒歩３分

自動車　那覇市から40分沖縄自動車道道金武インターから名護向け５分

お問い合わせ

時間　8:30 ～ 17:15
（土・日・祝日・年末年始以外）
TEL　098-968-2133（代）
内線　231・234

地域医療連携室（直通）

TEL　098-968-3550
FAX　098-968-7370

治療抵抗性精神疾患への医療

精神科医長　木田　直也

クロザピンの治療状況

治療抵抗性統合失調症の患者さんに対して、当院では 2010 年2月からクロザピン（CLZ）治療を開始し、登録症例数は延べ 421 例になりました。2024 年7月の CLZ 登録症例は3例で、このうち1例は他の精神科病院に入院中の紹介患者さんで、もう2例は他の精神科病院・クリニックに通院中の紹介患者さんでした。CLZ 導入前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために、隔離や身体拘束が必要な患者さんも多くいらっしゃいましたが、CLZ 継続例では問題行動も消失、もしくは軽減し、ほとんどの症例で隔離や身体拘束は解除できています。週に3回の CLZ 専門外来も行っていますので、患者さんのご紹介をお願いいたします。当院での CLZ 治療や沖縄県での地域連携の実際については、ノバルティスファーマ社の医療関係者向けサイトのクロザリル / クロザリル適正使用の流れ (https://www.drs - net.novartis.co.jp/dr/products/product/clozaril/point/) でも動画が公開されていますので、ご参照ください。

看護部

副看護部長　西口　悠架

琉球病院には、感染管理認定看護師・精神科看護認定看護師・重症心身障害看護認定看護師・看護師特定行為研修修了者など各専門分野のスペシャリストが所属しています。今年度7月からは、感染管理認定看護師が、専従となり組織横断的な活動を行っています。また、他施設との連携や情報共有を行いながら、精神科病院の特性を考慮し更なる感染防止に取り組んでいます。

また、当院には、看護師特定行為「精神及び神経症状に係る薬剤投与関連」区分の研修修了者が2名所属し、入院患者さんの薬剤に関する相談や、医師・薬剤師・看護師間の連携を目指した活動を行っています。

患者さん方に安心していただける医療・看護の提供に向け、専門的な知識と技術を提供できるよう取り組んでまいります。

訪問看護のご紹介

訪問・デイケア師長　翁長　稔

当院の訪問看護は、月曜日から土曜日（土曜日は件数や地域の制限あり）に1日に 30 件～ 40 件の訪問を行なっています。

利用者のニーズに応じて、知識や経験を積み重ねてきた専門スタッフ（看護師・作業療法士）が2人体制で自宅へ訪問し、服薬管理の状況や病状の変化、対人関係や地域で生活していく中で困っている事がないか等、対話を通して双方で問題の解決へ近づけ、利用者の方が安心して地域で生活出来るよう支援しています。

利用者のライフスタイルに合わせ、可能な限り希望に添えるような日程を調整していきますので、訪問看護を利用したい方、或いは詳しくお話を聞かれたい方は当院の地域連携室へお気軽にお声かけ下さい。

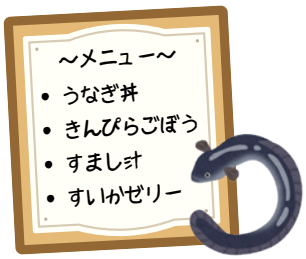
災害拠点精神科病院連絡会議のご報告

心理療法士主任　前上里　泰史

令和3年沖縄県精神科災害拠点病院に関する指導要領（R3 第7次医療計画）に伴い、沖縄県災害拠点精神科病院として同年9月、当院と医療法人へいあん平安病院が県から指定を受けました。災害拠点精神科病院とは、被災地から精神疾患を有する患者さんの受入れや一時的避難場所としての機能を有し、災害時に地域精神医療の中心的な役割を担う病院です。令和3年に指定を受けたものの、精神科災害拠点病院として具体的な対応が検討されていなかったため、この度第1回災害拠点精神科病院連絡調整会議を開催しました。会議では、発災後円滑に対応できるようになることを目標に、双方の病院の災害拠点精神科病院としての体制整備状況、DPAT隊員の育成、訓練の実際等、多くの課題を共有しました。特に平時から関係者および関係機関で顔の見える関係を作ること、災害拠点精神科病院のみならず県内の医療機関と連携を取ることが重要であることを確認しました。今後は、他の関係機関を含め定期的に会議を行っていくこととなりました。

7月行事食のご紹介

管理栄養士　村上　悠華



夏の土用の丑の日には夏バテ予防のため「う」のつく食べ物を食べるという一説があります。

当院でも、土用の丑の日にあわせて「うなぎ」の提供を行いました。もうしばらく暑さが続きそうです。皆様、しっかり食べ水分補給をして健やかにお過ごしください。